



2020年元旦
虎ノ門の金刀比羅宮にて

年頭にあたり

サポーターの皆さま、このサイトをご覧いただいている皆さまあけましておめでとうございます。
旧年中のご協力、ご支援に心より感謝申し上げます。
ありがとうございます。

逆転2件

昨年は、まだ判断能力（契約能力）があるにもかかわらず、「法定後見」の保佐、後見に持ち込まれていた2名の方を逆転で「任意後見」に変更しました。
いずれのケースも半年がかりでしたが、逆転のポイントは、自己決定権の尊重と残存能力の活用を訴えた「裁判所への上申書」と「不適切な健康診断に対する反証」でした。

そしてもうひとつ。逆転勝利へのシナリオを作成し、タイムスケジュールを立て、妥協を許さないスピード感を持って事にあたったことです。

わかりやすく言えば、裁判所の事務官が根負けするほど
間断なく書類を提出し、理不尽を許さない姿勢を保ちつつ理解を求めたことが勝利につながったと考えます。
いずれにせよ、私を支えたのは、任意後見サポーター®の皆さんのエールです。
ありがとうございました。

8月に出版！

政府は昨年11月6日「認知症施策推進大綱」を発表し、認知症を「だれもがなりうるもの」としました。
そして、「認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指す」とあります。

これは「今や、認知症になることは“必至”」ということを国民にアナウンスし、「認知症になっても自分らしく生きる」ということを述べたと考えます。
ならば、「任意後見で認知症に備えるのは“当然”」とし、たとえ認知症になっても自分が決めた生き方で生きぬくことを周知すべきではないでしょうか。

昨年暮、この趣旨に共感、賛同をいただいた大手出版社より依頼を受け、本年8月に本を発行することが決定しました。
「任意後見サポートキット」以来8年ぶりの出版です。

ご期待ください。

文責 佐々和亮